

申請に対する処分の審査基準

担当部署:市民生活部交通防犯課

No.007

処 分 名	犯罪被害者等見舞金（遺族見舞金及び傷害見舞金）の支給
処 分 の 概 要	犯罪行為により死亡した者（当該死亡の原因となった犯罪行為が行われた時において市内に住所を有していた者に限る。）の遺族又は犯罪行為により傷害を受けた者（当該傷害の原因となった犯罪行為が行われた時において市内に住所を有していた者に限る。）に対し、見舞金を支給する。
根拠法令等・条項	春日部市犯罪被害者等支援条例第8条 春日部市犯罪被害者等支援条例施行規則第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第8条、第9条、第10条、第11条、第12条、第13条
審 査 基 準	◎犯罪被害者等見舞金の支給するのは、次の要件を満たす場合 ●遺族見舞金の支給対象 犯罪被害者の死亡の当時において、犯罪行為により死亡した犯罪被害者の遺族のうち第1順位遺族となる者。 ●傷害見舞金の支給対象 犯罪被害の原因となった犯罪行為が行われた時から傷害見舞金の支給申請を行う時まで引き続き市内に住所を有している犯罪被害者。 ●支給の制限 次に掲げる場合には、犯罪被害者等見舞金を支給しない。 (1) 犯罪行為が行われた時において、犯罪被害者又は第1順位遺族と加害者との間に次のアからウまでのいずれかに該当する親族関係があったとき。

ア 夫婦（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあった場合を含む。）

イ 直系血族（親子については、縁組の届出をしていないが、事実上養子縁組関係と同様の事情にあった場合を含む。）

ウ 三親等内の親族（ア又はイに掲げるものを除く。）

(2) 犯罪被害について、犯罪被害者又は第1順位遺族に次のアからウまでのいずれかに該当する行為があったとき。

ア 当該犯罪行為を教唆し、又は幫(ほう)助する行為

イ 過度の暴行又は脅迫、重大な侮辱等当該犯罪行為を誘発する行為

ウ 当該犯罪行為に関連する著しく不正な行為

(3) 犯罪被害者又は第1順位遺族に次のアからウまでのいずれかに該当する事由があったとき。

ア 当該犯罪行為を容認していたこと。

イ 集団的に、又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織に属していたこと。

ウ 当該犯罪行為に対する報復として、加害者又はその親族その他の加害者と密接な関係にある者の生命を害し、又は身体に重大な害を加えたこと。

2 前項の規定にかかわらず、犯罪被害者又は第1順位遺族と加害者との関係その他の事情から判断して、犯罪被害者等見舞金を支給することが社会通念上適切であると市長が認めるときは、犯罪被害者等見舞金を支給する。

	<p>●遺族見舞金の支給申請</p> <p>遺族見舞金の支給を受けようとする第1順位遺族は、遺族見舞金支給申請書(様式第1号)に規則第7条に掲げる書類を添えて、提出する。</p> <p>●傷害見舞金の支給申請</p> <p>傷害見舞金の支給を受けようとする犯罪被害者は、傷害見舞金支給申請書(様式第2号)に規則第8条に掲げる書類を添えて、提出する。</p> <p>●支給申請の期限</p> <p>犯罪被害者等見舞金の支給申請は、当該犯罪行為による死亡若しくは傷害の発生を知った日から2年を経過したとき又は当該犯罪行為による死亡若しくは傷害が発生した日から7年を経過したときは、することができない。</p>
標準処理期間	概ね2週間
設定年月日	平成31年4月1日
申請時期	随時
申請方法	別館3階交通防犯課窓口への申請
備考	

根拠法令及び
関係法令等の抜粋

■春日部市犯罪被害者等支援条例

(見舞金の支給)

第8条 市は、犯罪行為により死亡した者(当該死亡の原因となった犯罪行為が行われた時において市内に住所を有していた者に限る。附則第2項において同じ。)の遺族又は犯罪行為により傷害を受けた者(当該傷害の原因となった犯罪行為が行われた時において市内に住所を有していた者に限る。附則第2項において同じ。)に対し、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める見舞金を支給するものとする。

(1) 遺族見舞金 30万円

(2) 傷害見舞金 10万円

■春日部市犯罪被害者等支援条例施行規則

(遺族見舞金の支給対象)

第3条 条例第8条第1号に規定する遺族見舞金の支給を受けることができる者は、犯罪被害者の死亡の当時において、犯罪行為により死亡した犯罪被害者の遺族のうち次項及び第3項の規定により第1順位遺族となる者(以下「第1順位遺族」という。)とする。

2 前項の遺族の範囲は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 犯罪被害者の配偶者(婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含む。)

(2) 犯罪被害者の収入によって生計を維持していた犯罪被害者の子、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹

(3) 前号に該当しない犯罪被害者の子、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹

3 遺族見舞金の支給を受けるべき遺族の順位は、前項各号の順序とし、同項第2号及び第3号に掲げる者のうちにあつては、当該各号に掲げる順序とし、父母については、養父母を先にし、実父母を後にする。

4 第1順位遺族が2人以上あるときは、これらの者は、そのうちの1人を遺族見舞金の申請、請求及び受領についての代表者に選任しなければならない。この場合において、当該代表者に対してした支給は、当該第1順位遺族全員に対してなされたものとみなす。

(傷害見舞金の支給対象)

第4条 条例第8条第2号に規定する傷害見舞金の支給を受けることができる者は、犯罪被害の原因となった犯罪行為が行われた時から第8条の規定による申請を行う時まで引き続き市内に住所を有している犯罪被害者(同条の規定による申請を行う時において市内に住所を有していない者であつて市長が認めるものを含む。)とする。

(犯罪被害者等見舞金の支給の制限)

第5条 市長は、次に掲げる場合には、遺族見舞金及び傷害見舞金(以下「犯罪被害者等見舞金」という。)を支給しない。

(1) 犯罪行為が行われた時において、犯罪被害者又は第1順位遺族(第1順位遺族が2人以上あるときは、そのいずれかの者。以下この条において同じ。)と加害者との間に次のアからウまでのいずれかに該当する親族関係があつたとき。

ア 夫婦（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあった場合を含む。）

イ 直系血族（親子については、縁組の届出をしていないが、事実上養子縁組関係と同様の事情にあった場合を含む。）

ウ 三親等内の親族（ア又はイに掲げるものを除く。）

(2) 犯罪被害について、犯罪被害者又は第1順位遺族に次のアからウまでのいずれかに該当する行為があったとき。

ア 当該犯罪行為を教唆し、又は幫(ほう)助する行為

イ 過度の暴行又は脅迫、重大な侮辱等当該犯罪行為を誘発する行為

ウ 当該犯罪行為に関連する著しく不正な行為

(3) 犯罪被害者又は第1順位遺族に次のアからウまでのいずれかに該当する事由があったとき。

ア 当該犯罪行為を容認していたこと。

イ 集団的に、又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織に属していたこと。

ウ 当該犯罪行為に対する報復として、加害者又はその親族その他の加害者と密接な関係にある者の生命を害し、又は身体に重大な害を加えたこと。

2 前項の規定にかかわらず、犯罪被害者又は第1順位遺族と加害者との関係その他の事情から判断して、犯罪被害者等見舞金を支給することが社会通念上適切であると市長が認めるときは、犯罪被害者等見舞金を支給する。

(遺族見舞金の額の調整)

第6条 傷害見舞金の支給を受けた者が死亡した場合（当該傷害見舞金の支給に係る犯罪行為による被害に起因して死亡した場合に限る。）は、当該傷害見舞金の支給により遺族見舞金の一部が支給されたものとみなす。この場合において、当該死亡した者の遺族に支給される遺族見舞金の額は、条例第8条第1号に規定する遺族見舞金の額から、当該傷害見舞金を控除した額とする。

(遺族見舞金の支給申請)

第7条 遺族見舞金の支給を受けようとする第1順位遺族（第1順位遺族が2人以上あるときは、第3条第4項の規定により選任された代表者。以下この条において「遺族見舞金申請者」という。）は、遺族見舞金支給申請書（様式第1号）に次に掲げる書類を添えて、市長に提出しなければならない。

- (1) 犯罪被害者の死亡診断書、死体検案書その他当該犯罪被害者の死亡の事実及び死亡の年月日を証明することができる書類
- (2) 遺族見舞金申請者の住民票の写し
- (3) 遺族見舞金申請者と犯罪被害者との続柄に関する戸籍の謄本又は抄本その他の証明書
- (4) 遺族見舞金申請者が犯罪被害者と婚姻の届出をしていないが、犯罪被害者の死亡の当時事実上婚姻関係と同様の事情にあった者であるときは、その事実を認めることができる書類
- (5) 遺族見舞金申請者が配偶者（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含む。）以外の者であるときは、第

1 順位遺族であることを証明することができる書類

(6) 遺族見舞金申請者が第3条第2項第2号に該当する者であるときは、犯罪行為が行われた当時犯罪被害者の収入によって生計を維持していた事実を認めることができる書類

(7) その他市長が必要と認める書類

(傷害見舞金の支給申請)

第8条 傷害見舞金の支給を受けようとする犯罪被害者(以下「傷害見舞金申請者」という。)は、傷害見舞金支給申請書(様式第2号)に次に掲げる書類を添えて、市長に提出しなければならない。

(1) 傷害を負った日、治療に要する期間及び傷害の状態に関する医師の診断書

(2) 傷害見舞金申請者の住民票の写し

(3) その他市長が必要と認める書類

(犯罪被害者等見舞金の支給申請の期限)

第9条 犯罪被害者等見舞金の支給申請は、当該犯罪行為による死亡若しくは傷害の発生を知った日から2年を経過したとき又は当該犯罪行為による死亡若しくは傷害が発生した日から7年を経過したときは、することができない。

(犯罪被害者等見舞金の支給決定等)

第10条 市長は、第7条又は第8条の規定による申請書を受理したときは、その内容を審査し、速やかに犯罪被害者等見舞金の支給の適否を決定するものとする。

2 市長は、前項の規定による決定を行ったときは、犯罪被害者等見舞

金（遺族見舞金・傷害見舞金）支給決定通知書（様式第3号）又は犯罪被害人等見舞金（遺族見舞金・傷害見舞金）不支給決定通知書（様式第4号）により通知するものとする。

（犯罪被害人等見舞金の請求）

第11条 前条第2項の規定により犯罪被害人等見舞金の支給の決定を受けた者（以下「受給者」という。）は、その支払を請求しようとするときは、犯罪被害人等見舞金（遺族見舞金・傷害見舞金）請求書（様式第5号）を市長に提出しなければならない。

（犯罪被害人等見舞金の支給決定の取消し等）

第12条 市長は、受給者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、犯罪被害人等見舞金の支給決定を取り消し、又は既に支給した犯罪被害人等見舞金の返還を求めるものとする。

(1) 第5条に規定する犯罪被害人等見舞金の支給の制限に該当するため、犯罪被害人等見舞金の支給決定を取り消し、又は既に支給した犯罪被害人等見舞金の返還を求めることが適当であると市長が認めるとき。

(2) 偽りその他不正の手段により犯罪被害人等見舞金の支給決定又は犯罪被害人等見舞金の支給を受けたとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、犯罪被害人等見舞金の支給決定を取り消し、又は既に支給した犯罪被害人等見舞金の返還を求めることが適当であると市長が認めるとき。

2 市長は、前項の規定により犯罪被害人等見舞金の支給決定を取り消したときは、犯罪被害人等見舞金支給決定取消通知書（様式第6

号)により通知するものとする。

(報告等)

第13条 市長は、犯罪被害者等見舞金の支給に関し必要があると認めるときは、受給者に対し、報告を求め、及び調査を行うことができる。

2 市長は、犯罪被害者等見舞金の支給に関し必要があると認めるときは、関係機関等、病院その他の関係者に照会して必要な事項の報告を求めることができる。